

平成 25 年度調査研究等計画書

事業名	イワシシラス漁場情報の収集と提供（採択研究課題：沿岸シラスの最適漁場探索支援ツールの開発）		
事業年度	平成23～25年	事業費	1,169千円
		財源	(-) (国) (諸) 1,169
		担当者	漁業資源課 柳川晋一
【背景・目的】			
<p>イワシシラスを対象とする本県の機船船曳網漁業は、漁獲量の長期低迷、燃油の高騰・高止まりにより厳しい経営となっている。</p> <p>そこで、(独)水産総合研究センター 中央水産研究所や関係県等と連携して、漁業者による漁模様の予測に役立つ土佐湾沿岸域の海況の速報を広く提供する仕組みづくりやイワシシラスの漁場ができる法則を探ることで、機船船曳網漁業の操業効率化による所得向上に貢献する。</p>			
【事業の概要】			
<ul style="list-style-type: none"> ・シラス漁業者の漁の予測に役立つ土佐湾沿岸域の海況の速報を広く提供する仕組みづくり ・本県における短期的、局所的なイワシシラス漁場ができる法則性の解明 ・中央水産研究所と関係県等が連携して取り組む漁場予測の支援システム開発への参画 			
【全体計画とこれまでの成果】			
<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画：北海道大学を中心としたイワシシラス漁業の漁船データ収集ツールの開発、中央水産研究所によるイワシシラス出現情報提供ツールの開発及び参画県ごとの漁場探索指針策定により、それぞれの海域でのイワシシラス漁業の効率化を目指す。 ・成果（本県関係）： <ol style="list-style-type: none"> ① 漁業者及び県調査船による海洋観測結果等との照合により、衛星水温画像から、ごく沿岸域に形成されるイワシシラス漁場への暖水波及等を判断できることを確認した。 ② 安芸地区では、マイワシ及びウルメイワシのシラスが主体となる12～3月は、カタクチイワシシラスが主体となる4～11月と比べ、50mm/日以上以降雨後は降雨前より水揚げが増加もしくは継続する確率が高い傾向がみられた。 ③ 土佐湾の透明度平年偏差が低い月はイワシシラス漁獲量が多く、透明度が高い月は少ない傾向がみられた。 ④ 近隣海域のマイワシ月別産卵量とマイワシシラスの月別漁獲量には有意な正の相関があった。ウルメイワシ及びカタクチイワシでは、関連性が見られなかった。 ⑤ 中央水産研究所が、機船船曳網漁業者を対象としたホームページ「沿岸シラス最適漁場探索支援システム」を開発した。本県は最新の漁況情報を提供し、関係漁業者等への情報提供に貢献した。 			
【25年度計画】			
<ul style="list-style-type: none"> ・中期・短期的及び局所的なイワシシラス漁場形成の解析及び法則性の解明 ・中央水産研究所と関係県等が連携して取り組む漁場予測の支援システム運用への協力 			
【成果目標】			
<ul style="list-style-type: none"> ・シラス漁業者による海洋観測体制の継続 ・イワシシラス漁業の漁模様の予測の参考となる短期的及び局所的な漁場ができる法則性の発見及びシラス漁場探索指針の作成 ・シラス漁業の漁模様の予測に役立つ土佐湾沿岸域等の海況・漁況の速報を広く提供する仕組みの維持 			
【期待される効果】			
<ul style="list-style-type: none"> ・シラス漁業者による漁模様の予測精度の向上及び効率的な操業による所得の向上 			